

墓誌を実見できたことは大きな収穫であった。

同日午後は、従来の予定通り国立国会図書館関西館（京都府相良郡）において、研究文献の収集に努めた。六月三日午前は、京都大学附属総合図書館において、前日と同様に研究文献・史料の収集に努め、夕刻白山に帰着した。両日の研究文献収集では、主として台湾において発表された文献の収集に努め、一〇〇本弱の文献を閲覧・複写することができた。

『唐代『牛李党争』に関する基礎的研究』に基づき、墓誌・石刻史料調査および資料収集

院生研究員 竹内 洋介

期 間 二〇一〇年九月五日～九月一三日

調査地 河南省洛陽・偃師・鄭州（中華人民共和国）

本調査の目的は、新出墓誌・石刻資料の調査および収集である。

本調査の成果としては、何より現在も陸続と発見が続いている洛陽地域の唐代墓誌の全体像に関する知見を得ることができたこと、そして未公表の新出墓誌の原石・拓本を実見することができ、写真撮影等を許されたことが挙げられる。研究遂行上、墓誌資料を多用する身にとっては非常に大きな成果であった。また、魏晉南北朝～唐代に至る墓誌資料を取り扱う第一線の研究者の調査に同行させていただいたことは、その調査の方法を間近で学ぶことができ、今後研究を遂行していくにあたって大きな糧となった。今後は本調査で得られた成果を元に研究課題を遂行し、研究成果を公表していきたい。

また、最後になるが、本調査旅行全般に亘る手配・ご案内をして下さった宇都宮美生洛陽理工大学副教授、そして何より指導教授である高橋継男先生に感謝したい。本調査が順調に進み、事前の予想以上に成果を得ることができたのは、両先生のご尽力によるところが大きい、この点につき、特に強調して報告する。

※調査詳細については割愛。

## 研究会合報告——二〇〇九年度～二〇一〇年度

「中東産油国における国際労働力移動と受入国Ⅱ送出国関係の新展開——  
UAE・カタール・バハレーン・クウェートの動向を中心に——」

京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科

日本学術振興会特別研究員〔DC〕

堀抜功二

本報告は、国際労働力移動の受入国Ⅱ送出国の関係の変遷について、中東産油国を事例に検討するものである。とくに、大量の外国人労働者の受け入れの結果、全人口に占める「国民」の数が三分の一を切る国となったアラブ首長国連邦（UAE）などを中心に、外国人労働者への依存の背景や、近年大きな変化が見られるようになった受入国Ⅱ送出国の関係について、その原因を明らかにする。

中東産油国は、一九七〇年代の石油ショックを背景に、大規模な国家開

発を進めてきた。その過程で、人的資源の不足を補うべく、アラブ・南アジア・東南アジアなどから大量の外国人労働者を受け入れることになる。また、脱石油依存の経済構造を構築するべく、経済多角化にむけて貿易や建設、観光、国際金融などの発展に力を入れた。その結果、地元の労働力や技術で補えない部分が増え、新たな外国人労働者への需要が増えたのである。

このようにして成立した受入国Ⅱ送出国関係は、これまで受入国側の力が非常に強かった。スポンサー制度と呼ばれるビザ発給システムが採用されているため、居住・就労のために雇用主側に逆らうことができず、それが外国人労働者に対する賃金未払いや虐待などの問題の原因となっていた。しかし、このような関係は、二〇〇六年三月にUAEのドバイ首長国で発生した「ブルジュ・ドバイ暴動」を契機に大きな変化を遂げることになった。世界で最も高い建造物を目指したブルジュ・ドバイ（現ブルジュ・ハリファ）の建設現場で、約三〇〇〇人の外国人労働者が大規模な暴動を起こした。さらに、その後他の首長国や周辺産油国において、同様の暴動が発生するようになった。このような暴動や外国人労働者問題が国際的なメディアに取り上げられ、その結果、中東産油国への国際的な人権批判や圧力が次第に強まっていき、受入国Ⅱ送出国関係に新たな変化が生じたのである。

現在、受入国の中東産油国と、主要な送出国となっているアジア諸国は、多国間枠組みの中で外国人労働者をめぐる問題を協議し始めている。また、個別の二カ国間で労働協定を結ぶなど、問題の防止や労働者の保護などへ具体的な取り組みも始まった。

## 研究会合報告

### コメント



渡邊暁子研究員



堀抜功二氏

客員研究員 青山和佳

### セッション2 院生研究員発表：自由題発表

「日本における情報公開システムの遅延」

山形勝義

「開成五年九月丁丑の衝撃——李徳裕執政期における『牛派』官僚の動向」

竹内洋介

「中国・内モンゴル自治区における貧困対策Ⅱ生態移民政策研究における諸論点——先行研究レビューを通して」

アルタンボリグ

「丁玲の第一個初期作品集——以『在黑暗中』为中心——」

馬 雪峰

### セッション3 研究所所属研究班・プロジェクトの活動報告

「東アジア経済のグローバル化と会社法制に関する研究」

「東アジア経済のグローバル化と会社法制に関する研究」 研究班

代表 井上貴也

「変わりゆく中国の経済と社会」

「変わりゆく中国の経済と社会」 研究班代表 郝 仁平

「韓国キリスト教会の海外布教——長老教巨済協会を通じて」

「トランスナショナルリテイ研究」 研究班代表 松本誠一

特別講演

一土官印をめぐる

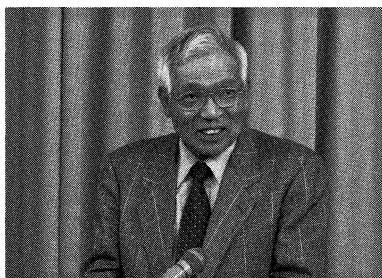
これまでの研究と展望

アジア文化研究所長

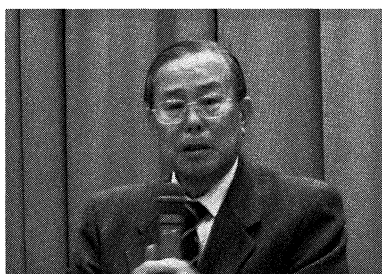
谷口房男

アジア地域研究センター長

比嘉佑典



谷口房男研究所長（当時）



比嘉佑典研究センター長（当時）

第一ステージ：研究所プロジェクトシンポジウム（共催企画）

「近代日本とトルコ・タタール世界との交流」

「総論」趣旨説明を兼ねて

「エルトゥールル号事件を契機とした日本人仏教僧のトルコ・欧州訪問」

客員研究員 奥山直司

「二〇世紀前半におけるイスタンブールの日本軍人たち」

研究員 三沢伸生

「昭和戦前・戦中期における神戸のタタール人」

客員研究員 福田義昭

客員研究員 吉田達矢

コメント

第二ステージ：竹内老子氏談話会

第三ステージ：研究発表

「河口慧海著『正眞佛教』直筆原稿について」

客員研究員 飯塚勝重

「日韓境域の現状——対馬・巨済島を中心に」

客員研究員 井出弘毅

（研究所プロジェクト）「境域アジアのトランスナショナル・コミュニティ

——地域間比較研究の定礎に向けて」報告

第四ステージ：退職教員特別講演

研究員 横川 伸

研究員 駒井義昭

第五回年次集会

日時 二〇一一年一月二二日（土）

会場 東洋大学白山校舎三号館三三〇三教室

〈シンポジウム〉

日中国際シンポジウム「中国の経済発展における貧困と所得格差」

日時 二〇一〇年二月二日

会場 東洋大学白山校舎二号館一六階スカイホール

主催 社会経済史学会七八回大会実行委員会（東洋大学）

共催 東洋大学アジア文化研究所（研究所プロジェクト）

司会 研究会 研究員 郝 仁平

報告①「中国内陸部農村地域における貧困問題と貧困対策」

報告者：甘肅省社会科学院社会学研究所長 包 曉霞

通訳 院生研究員 アルタンボリグ

コメンテーター：客員研究員 阿部照男

②「中国の経済発展と都市・農村の格差」

報告者：名古屋大学大学院教授 薛 進軍

コメンテーター：法政大学教授 牧野文夫

総合討論

〈ワークショップ〉

国際ワークショップ「Reconsidering Social History of Maritime Southeast

Asia : From the Sama-Bajau Perspectives」

日時 二〇一〇年二月一日

共催 アジア文化研究所・白山人類学会

Research Project on Comparative Area Studies on Maritime Southeast Asia, Toyo University. An Incubation Study on Social Dynamics of the Maritime Southeast Asia, CSEAS, Kyoto University

挨拶 研究員 松本誠一

趣旨説明 研究員 長津一史

Development and "Religion" among the Bajau in Davao, the Philippines 客員研究員 青山和佳

Dynamics of Ethnic Relations on the Malaysia-Philippine Border: A Case of Bangi Islanders

Assoc. Prof. Dr. JUNAENAH Sulehan  
Faculty of Social Sciences and Humanities,  
Universiti Kebangsaan Malaysia

特別講演

Sea is Our Home: Past, Present and Future of the Maritime Culture of the Sama Dialaut

HAJI MUSA S. Malabong,  
Chief Organizer,  
Sama Dilaut Cultural and Social Services Association

Mobility, Network and Ethnicity: Making of a Maritime World of the Sama-Bajau in Southeast Asia 研究員 長津一史

Linkage of Languages and Cultures: A Linguistic  
Perspective on Maritime World in Southeast Asia

客員研究員 赤嶺 淳

## VIDEO PRESENTATION

30 Years of Maritime World in Southeast Asia

有限会社海工房代表取締役 門田 修

Comments 総合地球環境学研究所所長 立本成文

## Discussion

## 第二回研究例会・研究所プロジェクト国際ワークショップ

「転換点理論から見た東アジア労働市場の変貌」

日時 二〇一〇年七月一日・一九日

会場 東洋大学白山校舎三号館三三〇一教室

主催 東洋大学アジア文化研究所／協賛：東アジア労働市場研究会

## セッションⅠ

コーディネータ

研究員 郝 仁平

## 趣旨説明

報告①「日本経済の転換点」

客員研究員 南 亮進  
客員研究員 南 亮進

コメンテーター

東洋大学 穂本洋哉

報告②「中国上海市における農民工のダイナミズム」

桃山学院大学 嚴 善平

研究会合報告

コメンテーター

産能短期大学 石塚浩美

報告③「A Discussion on the Lewisian Turning Point in Taiwan」

台湾東華大学 洪 嘉瑜

コメンテーター

中国社会科学院 蔡 昉

## セッションⅡ

コーディネータ

中国社会科学院 蔡 昉

報告①「インドネシアにおける労働分配率と過剰就業」

神戸大学名誉教授 本台 進

コメンテーター

拓殖大学 杜 進

報告②「韓国の労働市場構造変化と政策的含意」

韓国東亜大学校 金 昌男

コメンテーター

法政大学 牧野文夫

## セッションⅢ

コーディネータ

法政大学 牧野文夫

報告①「転換点時期の労働移動と所得不平等への影響」

中国社会科学院 都 陽・王 美艷

コメンテーター

名古屋大学 薛 進軍

報告②「中国農村の就業構造変化と農地流動化の進展」

アジア経済研究所 宝劔久俊・南京農業大学 蘇 群

コメンテーター

明海大学 高田 誠

総括討論① 名古屋大学／大分大学・名誉教授 江崎光男

総括討論②

中国社会科学院 蔡 昉

今後の研究について

客員研究員 南 亮進

〈フォーラム〉

第四回研究例会東洋大学アジア文化研究所プロジェクト フォーラム

「台湾をめぐる境域」

日時 二〇一〇年十一月六日

会場 東洋大学白山キャンパス 第三会議室

共催 白山人類学研究会

趣旨説明

研究員 植野弘子

セッション一 台湾と八重山

報告一 「戦後台湾で発足した台湾沖縄同郷会連合会について―沖縄から台湾に疎開した人々の引き揚げを例に―」

八重山毎日新聞社 松田良孝

報告二

「琉球列島から台湾への人の移動―植民地期からポスト植民地期へ―」

日本学術振興会特別研究員／上智大学 松田ヒロ子

コメント

琉球大学 大浜郁子

セッション二 台湾と韓国

報告三

「対馬海峡から見る台湾と八重山の交流」 県立広島大学 上水流久彦

報告四

「港のコリアン―基隆・花蓮と下関・福岡を比べて」

コメント

研究員 松本誠一  
客員研究員 井出弘毅

セッション三 台湾の境域のひろがり

報告五

「台湾東部漁民社会における中国人漁民―大陸漁工をめぐる民族関係」

報告六

日本女子大学 西村一之

「国際ブローカー婚と再生産の展開―『台湾』境域拡大の一メカニズム」  
日本学術振興会特別研究員／東京外国語大学 横田祥子

コメント

研究員 後藤武秀

総合討論

〈研究例会〉

第一回研究例会 兼「中華世界の拡大と再生」研究班例会

日時 二〇一〇年五月二十九日

会場 東洋大学白山校舎五号館五四〇三教室